

平成31年度 北海道大学大学院  
文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分

- 一般入試
- 外国人留学生特別入試
- 社会人特別入試（後期のみ）

試験科目名

- 専門試験（ 日本史学 ）
- 共通外国語（ ）

出題の意図

問題Ⅰでは、日本史研究者として必要な、方法論に関する設問とした。歴史における民衆の役割をどう評価するのかは、対象とする時代を問わず、研究者に常に投げかけられる問題である。

問題Ⅱでは、前近代史および近代史の研究に必要な史料読解力と基本的な知識を問う問題とした。史料読解部分には、初学者でも解答できるような設問と、史料の内容を正確に理解しなければ解答できない設問がある。

平成31年度  
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）  
（専門試験） 日本史学 全5枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 5枚、解答用紙 2枚を配付する。

.....

**【問題の構成】**

- ①全2問。問題Ⅰと問題Ⅱとからなる。
- ②問題Ⅰは共通問題である。受験者は、全員、この問題を解答しなさい。
- ③問題Ⅱは選択問題である。受験者はAまたはBのいずれかを選択し、解答しなさい。

**【解答用紙の使用方法】**

解答は問題Ⅰと問題Ⅱについて、別々の解答用紙に記入すること。

.....

**問題Ⅰ**

日本史における民衆の果たした役割について、具体例を挙げながら論じなさい。

問題Ⅱ **A** 次の【史料一】・【史料二】を読んで、下記の設問（問1～9）に答えなさい。なお、出題の都合上、史料の表記を改めたところがある。

【史料一】 肥後正観寺文書（宝徳二年〔一四五〇〕）

A 就<sup>①</sup>当寺造管渡唐并諸国奉加事、申沙汰候、仍而<sup>②</sup>門徒中被望公文方者、可有御注進候、為其使節妙儔藏主下向候、鹿苑院御退時分候間、<sup>③</sup>不被進状候、恐惶敬白、

十二月十三日 澄祈（花押）

正観寺侍衆禅師

B <sup>④</sup>雖同門候、未申通候、以事之次令申候、抑自天龍寺、為造管渡唐并諸国奉加之事、申沙汰候、妙儔藏主為使節、其方下向候、門中被望公文方様者、被仰定、可有注進候、可得御意候、恐惶敬白、

臘月十八日 祥勤（花押）

<sup>⑤</sup>謹上 正観寺侍衣閣下

問1 傍線部①の「当寺」とはどこを指すか、史料から読み取って答えなさい。

問2 傍線部②につき、(1)「公文」とは何か、説明しなさい。(2)「公文」を望む者を「注進」する宛先はどこだと考えられるか、史料から抜き出して答えなさい。(3)なぜ「公文」を希望する者のリストを「注進」させたのか、考えられるところを述べなさい。

問3 傍線部③「不被進状候」を旧仮名遣いで訓み下しなさい。

問4 傍線部④「雖同門候、未申通候、以事之次令申候」を旧仮名遣いで訓み下し、現代語訳しなさい。

問5 傍線部⑤「謹上 正観寺侍衣閣下」は文書の宛先を示している。(1)「正観寺」の上にある「謹上」の二文字を古文書学では何と呼ぶか。(2)「正観寺」の下の「侍衣閣下」を同じく何と呼ぶか。それぞれ答えなさい。

【史料二】 『朝鮮宣祖美録』二十九年(一五九六)十二月己巳条

〈關白謝恩表文曰〉日本國王臣豊臣秀吉、誠惶誠恐、稽首稽首。伏惟、日月照臨、仰大明於萬國、江海浸潤、措レ聖化於無疆。皇運高承、天恩普濟。恭惟、昭レ祖宗德、安人民心。遠近巨細、霑恩不減、堯舜之聖世、威儀進止、合禮蕩乎周夏之隆風。何計東海小臣、直蒙中華盛典。誥命・金印・禮樂・衣冠、咸レ併恩寵。臣一尊崇感戴之至、擇日必具方物、申謝九重。虔盡丹誠、願察愚悃。天使先回、謹附表以聞。

(注) 冒頭の〈 〉のなかの文字列は、原文では双行(割り注)となっている。

問6 これは朝鮮側の史料に残された「豊臣秀吉」名義の文書である。(1) 誰に宛てられた文書と考えられるか、(2) また文書名をつけるとすれば何がふさわしいか。それぞれ答えなさい。

問7 この文書は、近代のジャーナリスト、徳富蘇峰が偽文書と断じて以来、歴史学で正面から取り上げられることがほとんどなかった。なぜ蘇峰はこの文書を偽文書と判断したのであろうか。あなたの考えるところを述べなさい。

問8 文書の途中には幾つもの空白があり、本問ではそれを「」で示してある。この空白を古文書学では一般に何と呼んでいるか。また、その意味するところについて、それぞれ答えなさい。

問9 二重傍線部「天使先回、謹附表以聞」を旧仮名遣いで訓み下し、現代語訳しなさい。その際、「天使」の果たした役割について、史料から読み取って併せ記述すること。

問題Ⅱ **B** 次の【史料】を読んで、下記の設問(問1～5)に答えなさい。また、問6に答えなさい。なお、出題の都合上、史料の表記を改めたところがある。

【史料】

幌内鉄道運賃減額之儀請願書

運輸交通ノ便利ハ人民移住、農ニ工ニ商ニ諸般ノ業ヲ起スニ一大必要ナルハ論ヲ俟タス、故ニ  
(a) 明治十三年中、官幌内鉄道ヲ開設セラレ、爾来耕産物消流ノ便ハ勿論商賈売買上其他大ニ  
便利ヲ得候処、尚ホ物産ノ興隆商業ノ盛大ヲ謀ルハ、専ラ価直ヲ廉ニセサレハ販路ヲ拓ムルヲ  
得ス、価直ヲ廉ニスルハ必ス運賃ヲ減省セサレハ此ノ目的ヲ達スル能ハス、然ルニ今幌内鉄道  
運賃ノ如キ敢テ低廉ナリトセス、当初御開設ノ頃ハ単リ運賃ノミナラス、諸物価高貴ノ時節ニ  
有之故ニ左迄影響モ無之候処、(b) 近来不景氣物価下落、運賃却テ原価ニ倍スルモノ往々有之、  
之レヲ他道各所ノ運賃ニ比較仕候ヘハ即チ別紙略表ノ通、数倍ノ高直ニ居ルモノアルニ至リ、  
加之幌内鉄道ニ於テハ百斤ト称スル拾貳貫目ヲ以テシ、他道ノ鉄道ニ於テハ拾六貫目ヲ以テス  
ルノ差違モ亦少小ナラス、今仮リニ米百石ヲ四千貫目ト定メ、此英斤三万三千三百三拾三斤余、  
手宮札幌間ヲ貳拾貳英里トシ、以テ此運賃ヲ問フトキハ即チ金三拾八円七拾錢余、之レヲ他道  
ニ在テハ和斤貳万五千斤運賃金拾壹円ヲ以テスルニ、(c) 比較スルトキハ僅カニ米百石ノ運賃  
ニシテ尚ホ金貳拾七円七拾錢余ノ大差ヲ觀ルニ至ル。(中略) 尤凡幌小樽間ノ如キ駄走ヲ以  
テスルトキハ極メテ低廉ニ運搬シ得ラル、勿論ニ候ヘトモ、如何セン小樽ヨリ錢函ニ至ル殆ト  
四里間ハ、単ニ鉄道ニ倚ルニアラサレハ他ニ貨物運搬ス可キ車馬道ハ勿論、人道モ無之、旁以、  
不一方困難ノ事情御酌量、(d) 殊ニハ開拓御創業以來移住日尚淺ク、所謂幼稚ノ人民深ク哀憐  
ヲ垂セラレ、出格ノ御詮議ヲ以テ幾重ニモ願意御聞届被成下度、此段伏テ奉請願候也

明治十八年十月六日

請願發起人

札幌県石狩国札幌区南一条西二丁目

拾五番地平民荒物渡世

佐藤金治 印

請願發起人

札幌県石狩国札幌区南二条西二丁目

拾一番地平民荒物渡世

後藤半七 印

請願發起人

札幌県石狩国札幌区南一条西二丁目

拾番地寄留鹿兒島県士族荒物渡世

木原慶輔 印

請願發起人

札幌県石狩国札幌区南二条西三丁目

拾一番地寄留岩手県平民貨物回漕渡世

多田武雄 印

(以下人名百五十一人分略)

札幌県下石狩国札幌郡南一条西四丁目

五番地平民農業

水原寅藏 印

(e)農商務卿西郷従道殿

前書願出ニ付奥印之上進達仕候也

札幌県札幌区長

山崎清躬 印

(出典：鈴江英一著『開拓使文書を読む』)

問1 傍線部(a)を、すべてひらがなで書きなさい。

問2 傍線部(b)について、このような経済状態になっているのは、なぜか。説明しなさい。

問3 傍線部(c)について、史料の書き手(請願者)は、幌内鉄道の運賃は他道の鉄道の運賃よりも高い、ということを主張している。その理由(根拠)として史料に書かれていることを説明しなさい。

問4 傍線部(d)を、すべてひらがなで書きなさい。

問5 傍線部(e)の語句の意味を説明しなさい。

問6 戦前日本の植民地の歴史を研究する場合、用いるべき資料には、どのようなものがあるか。また、それらの資料は、どこに所蔵されているか。具体的な例を挙げながら説明しなさい。